

施策評価シート(令和4年度実績評価)

◎施策の基本情報

政策No	0302	政策名	学校教育の充実	施策主管課	学務管理課	課長名	高橋 晃一
政策の目指す姿		夢と希望を持ち、たくましくいきいきと育っています					
施策No	04	施策名	教育環境の充実	関係課名	教育企画課、学校教育課、学校給食ほか		
施策の目指す姿		適正で安全な施設環境が整い、家庭・地域と連携した学校教育が行われています					

現状と課題							
【現状】							
<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の登下校時の交通事故や、不審者による声かけ事案が多くなっているほか、熊の出没情報も多くなっています。 少子高齢化の進展や家庭環境の変化と併せ、保護者の価値観が多様化しているため、学校運営について厳しい意見があり、学校だけの対応では難しい状況にあります。 パソコンやタブレットなど教育機器の発達が一貫して進んでいます。 児童数の減少が著しい複式学級を有する小学校において、発達段階に応じた学習環境を提供することが難しくなっています。 老朽化が進んでいる校舎等があります。 花巻地域の学校給食センターは施設や設備の老朽化による不具合が発生し、修繕費が増高しているほか、学校給食衛生管理基準や食物アレルギーへの十分な対応が難しい状況です。 教職員の仕事量が増加し、超過勤務が改善されにくい状況です。 中学校の部活動は、過剰な活動時間が問題となっているほか、生徒数の減少による廃部や休部、複数校による合同部活動が目立つようになっています。 少子化に伴う高等学校入学者数の減少を受けて、岩手県教育委員会が策定した「新たな県立高等学校再編計画（後期計画）」による取組が進められています。 経済的な事情により、修学が困難な学生に対する国の給付型奨学金制度が拡充されています。 地域が必要とする若手の人材が不足している状況があります。 							
【課題】							
<ul style="list-style-type: none"> スクールガードの人数が減少傾向にあり、児童の登下校の十分な見守り体制の維持に課題がみられます。 地域が学校の応援団となり、地域と学校が相互補完して同じ目標に向かうためには、地域住民に学校を理解してもらう必要があります。 「主体的・対話的で深い学び」の新学習指導要領に沿った教育環境を充実させるために、学校ICT環境整備の充実が不可欠となっています。 学校統合や学区の再編成は、保護者や地域の理解を得ながら検討する必要があります。 安全安心な校舎等を維持するために、計画的な補修を進める必要があります。 花巻地域の学校給食センターは、児童生徒数の推移を見極めながら、統廃合及び新設を含めて整備を検討する必要があります。 教職員の超過勤務の要因として、中学校における部活動指導が大きな比重を占めていることから、部活動指導員の配置等を進める必要があります。 中学校の部活動について、成長期の生徒が運動と休養のバランスのとれた生活を送ることができるような配慮とともに、生徒のスポーツ・文化芸術活動の機会を着実に確保するため、部活動を段階的に地域移行していく必要があります。 市内の高等学校を維持し教育の機会均等を確保するための支援に一定の成果が出ており、各校の特色づくりへの取組を継続して支援する必要があります。 市の奨学金制度については、国の給付型奨学金制度への応募及び採用状況を見極め、状況に応じて見直す必要があります。 地域の将来を担う人材の確保対策として、学校を卒業後、地域に定住を望む方を支援していく必要があります。 							

◎前年度の評価の振り返り							
前年度評価時の今後の方向性							
<ul style="list-style-type: none"> ・全中学校区でのコミュニティ・スクールの設置に向け、学校や地域に推進モデル校の実践を周知し取り組みの具体化を図る。 ・学校給食センターは、安定的な学校給食の提供を行うため長寿命化対策を進める。また、老朽化対策として（仮称）花巻中央学校給食センターの整備計画を策定する。 ・奨学金事業については、市内各高校へのチラシ配布や市広報紙、HP等を活用し、各家庭への現行制度の周知を図るとともに、経済的事由により修学困難な者が利用しやすい制度となるよう制度の見直し等について検討を継続する。 							

反映状況							
<ul style="list-style-type: none"> ・全中学校区へのコミュニティ・スクール設置に向けて、推進モデル校である湯本、大迫、東和の中学校区の実践を他の学校に広め、令和4年度は5つの中学校区が設置を見据えた取組を具体的に進めている。 ・児童生徒一人一台のタブレット端末は整備済みであり、学校教育課にICT支援員2名を配置し活用方法の周知を図るとともに、故障や破損時の対応など運用面での方針を整備して対応している。今後は持ち帰りの在り方の検討が必要である。 ・学校給食センターは、（仮称）花巻中央学校給食センターの新設による統合を目指し、計画の策定及び老朽化の対応を行う。 ・奨学金事業については、経済的事由により修学困難な者が利用しやすい制度となるよう、制度の見直しについて検討を継続する。 							

1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取組							
<ul style="list-style-type: none"> (1) 地域とともにある学校づくり <ul style="list-style-type: none"> ・地域の安全指導体制の強化 スクールガードリーダーによる巡回指導、スクールガード養成講習会の実施 ・コミュニティ・スクールの推進 地域コーディネーターの配置と学校の教育活動支援、学校地域連携事業推進会議の実施 ・家庭、地域の教育力向上のための支援 学校と家庭・地域との「まなびフェスト」の共有と取組 (2) 教育環境の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・「令和の日本型学校教育」を支える教育環境の整備 児童生徒一人一台分のタブレット端末、児童生徒に貸与するモバイルWi-Fiルータを整備 ・少子化による児童生徒数の減少に対応した学校統合や学区再編 R5の笹間地区2小学校の統合に向けて設置した準備委員会の開催 ・安全安心で快適な学習環境の確保に向けた施設長寿命化の推進 花巻市学校施設長寿命化計画の推進、校舎等維持補修 ・教職員の多忙化解消の推進 学校における解消プログラムの策定と推進会議の開催（年3回） ・適正な部活動の推進と休日の部活動の地域移行 市部活動等の在り方に関する方針の遵守、部活動指導員の配置 (3) 高等教育への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・私立高等学校の振興に対する支援 私立高校の運営に対する補助金交付 ・市内県立高等学校の存続及び学級数の維持による教育の機会均等の確保 大迫高校の生徒確保に取組む団体に対する補助金交付 ・高等学校以上の修学及び卒業後の地域への定住に対する支援 市奨学金制度による高校生や大学生への奨学金貸与 							

2 成果指標										
成果指標名	成果指標設定の考え方	成果指標の測定方法	単位	区分	H31	R02	R03	R04	R05	R06
コミュニティ・スクールの割合	各校は、家庭や地域と連携し、特色ある教育活動を展開しつつある。さらに充実した特色ある学校を目指すためにも、地域連携推進事業を進展させた、コミュニティ・スクールの設置が必要である。	花巻市内の小中学校30校のうち、コミュニティ・スクールになった学校の割合で測定する。	%	目標値		6.60	20.00	100.00	100.00	
				実績値		0.00	7.14	42.86		
教育用タブレットを活用できる児童生徒の割合	「主体的・対話的で深い学び」において、タブレットの活用は有効である。そこで、パソコン教室に、1人1台の割合で設置された小中学校の割合とする。	パソコン教室に、タブレットが1人1台の割合で設置された小中学校の割合。	%	目標値		73.30	96.70	100.00	100.00	
				実績値		57.14	100.00	100.00		
				目標値						
				実績値						

3 成果指標の達成状況

達成度	達成状況に関する背景・要因
C	<ul style="list-style-type: none"> ■成果指標 コミュニティ・スクールの割合〔達成度d〕 ・各学校では地域と連携した教育活動は十分行われている。 ・コミュニティ・スクールの設置については、推進モデル校（湯本、東和、大迫の中学校区）を設置し以降、学校運営協議会の在り方を検討しながら段階的に進めている。令和5年度は5中学校区で設置予定。 ■成果指標 教育用タブレットを活用できる児童生徒の割合〔達成度a〕 ・「GIGAスクール構想」の実現に向け、児童生徒一人一台分のタブレット端末の整備に切り替え、令和3年6月末で設置済み。

4 施策を構成する事務事業の検証

①市民のニーズや市の関与の必要性が低下した事業、②投入コストの割に成果が低い事業、③施策への貢献度の低い事業はないか
・なし
<p>施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（奨学金活用人材確保支援事業費）引き続き現行制度の周知を図る。 ・（学校安全確保事業費）児童生徒の交通事故0件を目指し、学校の取組の充実を図る。 ・（はなまき夢応援奨学金事業費）R3から貸与要件を緩和し、日本学生支援機構給付奨学金採択者を追加したこと、国等が行う返還を要しない奨学金との併用を可としたことの周知を図る。 ・（岩手県立大迫高等学校生徒確保対策事業費）目標値である21人を越えたものの、引き続き、同校で学ぶ魅力を花巻市内外に発信していくよう努め、入学者の増加を図る。
新たに取り組むべき事業はないか
・なし

5 施策の総合的な評価

課題
<ul style="list-style-type: none"> ・学校施設の老朽化に伴う維持補修等の必要性が高まる一方で、少子化による児童生徒数の減少から学校の適正規模の維持が難しくなっている。 ・全中学校区でのコミュニティ・スクールの設置に向けた地域連携などの取組を支援する必要がある。 ・学校給食センターは、安定的な学校給食の提供を行うため、長寿命化対策と老朽化対策を進める必要がある。 ・奨学金事業については、一定の利用者はいるものの目標値には達していないことから、制度の検証等を行う必要がある。
今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・今後の学校の在り方についてPTAや地域と共に検討しながら、老朽化した学校施設の維持補修等を計画的に実施する。 ・すべての中学校区においてコミュニティ・スクールの設置するとともに、学校運営協議会の機能を生かした地域学校協働活動の取組を推進する。 ・各学校給食センターにおいて、学校給食の安定供給を図るため、優先度を鑑みながら年次計画の中で設備の修繕及び新規導入を図る。また、花巻中央学校給食センター（仮称）の整備に向けた用地検討を進める。 ・奨学金制度について、貸与の対象者の拡大を図る等、修学に係る経済的な支援の検討を図る。

施策を構成する事務事業一覧

No	事務事業名 事業内容(活動実績)	担当課	施策への貢献度		
			対象	意図	成果
			直結度		
010	小中学校学区再編成等調査事業費	教育企画	一致	直結	-
	教育懇談会を5回開催したほか、4回の笹間地区小学校統合準備委員会と5つの専門部会(18回)、笹間第二小学校開校式を開催した。				
020	私立高校振興事業費	教育企画	一致	直結	-
	私立高校の運営に対する補助金交付(3,240千円)				
030	奨学金活用人材確保支援事業費	学務管理	一致	直結	C
	奨学金返還者で、市内保育園に勤務する保育士に返還金の半額を補助し保育士を確保する。(3人) 奨学金返還者で、市内大学を卒業した市内居住者に返還金の半額を補助し定住を図る。(6人 継続5、新規1)				
040	学校安全確保事業費	学校教育	一致	直結	-
	スクールガードリーダーによる巡回指導回数(245回) スクールガード養成講習会の実施回数(6回)				
060	小学校施設維持事業費	教育企画	一致	直結	-
	設備設置等業務、校舎等維持補修及び設計業務(17校)				
080	中学校施設維持事業費	教育企画	一致	直結	-
	設備設置等業務、校舎等維持補修及び設計業務(11校)				
120	はなまき夢応援奨学金事業費	学務管理	一致	直結	C
	修学のための支援として学資金を貸与し、卒業後市内に居住する場合は返還免除(4人)				
130	岩手県立大迫高等学校生徒確保対策事業費	大支(教育)	間接・少数	直結	B
	高校生おおさま留学生の受け入れ(3人 新規2 継続1) 大迫高校生確保に取り組む団体及び生徒に対する補助金交付(7,249千円)				
140	部活動適正化促進事業費	学校教育	一致	直結	B
	教員の多忙化解消のため、部活動指導員を中学校10校に27人を配置(3,010千円)				
150	学校地域協働連携事業	学校教育	一致	直結	B
	地域人材を活用した学習支援、体験活動の実施(2,416千円)、学校図書館巡回支援(2,646千円)				
160	学校給食センター改修事業	学校給食	一致	直結	B
	老朽化した備品の更新(6センター 26,026千円) 空調設備更新実施設計(1センター 1,045千円)				